

平成21年4月17日

国土交通大臣 金子 一義 様
北海道企業局局長 畑 秀叔 様

北海道自然保護連合	代表	寺島一男
富川北1丁目沙流川被害者の会	代表	中村正晴
十勝自然保護協会	会長	安藤御史
自然林再生ネットワーク	代表	前田菜穂子
ユウパニコザクラの会	会長	梅木久嗣
環境学習石城塾	代表	石城謙吉

血税を使い自然破壊した無駄な公共事業に対し

強く抗議し責任を迫ります

拝啓 春たけなわの候、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本年2月5日から平成22年1月8日までの工期で、二風谷ダムから苫小牧東部地区に工業用水を引くために4億円以上をかけて建設された取水塔の撤去工事が1億円以上をかけて行われています。

苫小牧東部工業開発事業は国家プロジェクトとして開発計画され既に巨額の血税がつぎ込まれ、挙句の果てに時のアセスで凍結され、そのために建設された二風谷ダムは100年推定の堆砂量の既に10年をまたずしてその2倍が堆積するに及び治水能力が失われ、毎年堆積土砂掘削工事や運搬に数千万が費やされても堆砂量の増加の激しさに迫りつけず、更に危険度を増すばかりです。

そのためにダム下流域の住民は不安に怯え、ダムで蓄積された水質の悪化と微細な泥土被害、洪水被害の増加、水産資源の減少、米の等級下落により農家の生活を脅かす事態、地下水の枯渇などダムによる自然破壊は悪化の一途を辿っています。

このようなずさんな巨大公共事業計画に費やされた巨額な血税が破綻により無駄に浪費させられ、それどころか生命維持に不可欠な自然破壊を招いた責任をどのように国や道はとるのか、また今後どのようにこのことについて具体的に政策を行うつもりなのか、選挙を踏まえ国民に説明する義務があります。

ここに、強く抗議するとともに、回答を4月30日までに下記にご送付下さい。回答なき場合も含めてこのことは、報道機関を通して広く国民に公表させていただきます。

敬具